2024年度見通し

オムロンにおける24年度の事業環境は、グローバルでのインフレや、欧州・ロシア、中東情勢など、地政学リスクが継続し、不透明な状況が続くと見通します。

オムロンが事業活動を展開する事業領域においては、制御機器事業・電子部品事業では下期から緩やかな需要回復を見込んでいます。一方で、ヘルスケア事業は堅調な市場成長を見通しており、社会システム事業も好調な事業環境が継続すると見ています。

このような中、構造改革プログラム「NEXT2025」において、収益成長基盤の再構築に取り組むことで、売上高と営業利益は増収増益を見通します。一方で、2000人規模の人員削減による約280億円の一時的な費用を当見通しに含めているため、税引前当期純利益については減益となる見込みです。

24年度は、「All for creating customer value～すべてのアクションを顧客にとっての価値の創出に集中させ、収益・成長基盤を再構築する」を全社方針とし、構造改革プログラム「NEXT2025」の完遂に向けた取り組みを加速させます。この取り組みのもと、売上高8,250億円（当期比+0.8%）、売上総利益率44.7%（同+2.4ポイント）、営業利益490億円（同+42.7%）の増収増益を目指します。

	2023年度	2024年度（計画）	増減率
売上高	8,188億円	**8,250億円**	＋0.8%
売上総利益（売上総利益率）	3,465億円 （42.3%）	**3,685億円 （44.7%）**	+6.4% （+2.4P）
営業利益（営業利益率）	343億円 （4.2%）	**490億円 （5.9%）**	+42.7% （+1.7P）
税引前当期純利益	350億円	**210億円**	△39.9%
当社株主に帰属する当期純利益	81億円	**85億円**※	+4.9%
米ドル平均レート	143.9円	**145.0円**	+1.1円
ユーロ平均レート	156.3円	**155.0円**	△1.3円
人民元平均レート	20.1円	**20.0円**	△0.1円

※構造改革における「人員数・能力最適化」に伴う特別一時金等の費用として、約280億円の営業外費用を反映

	売上高			営業利益		
	2023年度	2024年度（計画）	増減率	2023年度	2024年度（計画）	増減率
制御機器事業 （IAB）	3,936億円	**3,550億円**	△9.8%	215億円 （5.5%）	**275億円 （7.7%）**	+27.9% （+2.2P）
ヘルスケア事業 （HCB）	1,497億円	**1,610億円**	＋7.5%	185億円 （12.3%）	**220億円 （13.7%）**	+18.9% （+1.4P）
社会システム事業 （SSB）	1,416億円	**1,545億円**	＋9.1%	140億円 （9.9%）	**170億円 （11.0%）**	+21.4% （+1.1P）
電子部品事業 （DMB）	1,144億円	**1,100億円**	△3.8%	31億円 （2.8%）	**40億円 （3.6%）**	+29.0% （+0.8P）
データソリューション事業 （DSB）	174億円	**430億円**	＋147.1%	22億円 （12.6%）	**30億円 （7.0%）**	+36.4% （△5.6P）
本社他（消去調整含む）	21億円	**15億円**	△28.6%	△242億円	**△245億円**	△1.2%
業績変動リスク	—	—	—	—	—	—
合計	8188億円	**8,250億円**	+0.8%	343億円 （4.2%）	**490億円 （5.9%）**	+42.7% （+1.7P）

■制御機器事業（IAB）

売上高の状況	半導体関連の投資需要は第3四半期以降、日本、韓国等を中心に回復を見通すものの、他業界における投資の需要回復は緩やかなものと想定しています。また、販売代理店において高水準で推移している在庫については、上期中には概ね正常化すると見ています。これらの状況から、24年度の売上高は3,550億円で減少を見込みます。
営業利益の状況	売上高は当期を下回るものの、構造改革を着実に実行し、売上総利益率の改善、固定費の適正化を進めることで、24年度の営業利益は275億円で増加を見込みます。

■ヘルスケア事業（HCB）

売上高の状況	グローバルで慢性疾患患者数の増加傾向が継続する中、血圧計等の健康機器の需要は増加すると見ています。このような中、グローバルで拡大するオンラインチャネルでの販売強化に加え、新興国における需要拡大を捉えてまいります。特に、日本、欧米、中国での家庭心電計の販売拡大や、各エリアの現地ニーズを捉えた商品展開の強化により、24年度の売上高は1,610億円で増加を見込みます。
営業利益の状況	売上高の増加に加え、慎重な固定費運用や、売上カテゴリ構成の変化に伴う利益率の改善、物流費のコストダウンにより、24年度の営業利益は220億円で増加を見込みます。

■社会システム事業（SSB）

売上高の状況	エネルギーソリューション事業では、エネルギー価格の高騰やカーボンニュートラルに向けた取り組みが継続し、住宅・産業領域での再生可能エネルギーに対する需要が堅調に推移すると見ています。駅務システム事業では、顧客の設備投資が引き続き堅調に推移すると見ています。以上より、24年度の売上高は1,545億円で増加を見込みます。
営業利益の状況	売上高の増加や生産性向上により、24年度の営業利益は170億円で増加を見込みます。

■電子部品事業（DMB）

売上高の状況	半導体関連業界向けの需要は緩やかに回復すると想定するものの、民生業界向けの需要は、顧客の在庫調整が続き、正常化は第3四半期以降になると想定することから低調に推移すると見ています。以上により、24年度の売上高は1,100億円で減少を見込みます。
営業利益の状況	売上高は減少を見込むものの、価格適正化や固定費削減などの事業構造改革の実行により、24年度の営業利益は40億円で増加を見込みます。

■データソリューション事業（DSB）

売上高の状況	JMDC社の事業において、製薬企業中心に医療データ利活用の動きが引き続き拡大すると見込んでいます。また個人の健康、予防意識の高まりを受け、保険者、生活者向けサービスの需要も拡大が続くと見ています。加えて、次期の売上高は、JMDC社の通期売上高が当事業に寄与するため、24年度の売上高は430億円で大きく増加すると見込みます。
営業利益の状況	売上高増加に伴い、24年度の営業利益は30億円で増加を見込みます。なお、当セグメントには新たなデータサービス創出に向けた成長投資も織り込んでいます。（JMDC社の財務数値に加え、JMDC社の連結子会社化によって識別した無形資産の償却費、オムロンが進めるデータソリューション事業に関する財務数値を当セグメントに含めています。）